



飛鳥川

の上流に、県が川中に公園を造ろうとした跡が残っているが、自然の中で子どもと親と一緒に遊べるような場所を考えてもらいたい。若い層の代表者と相談するなどし、進めてはと思うが、取り組む気はあるのか。

答 飛鳥川の流水は増え、環境状態や生物多様性の向上を期待している。飛鳥川の堤防沿いには自転車道があるが、途切れ途切れになっている。管理は県なので、県と一緒にやって自転車道及び河川環境の改善を考えたい。3月に、県と包括協定を結んでおり、飛鳥川も県と一緒に検討したい。

一般質問
松尾 高英
(いずれの会派にも所属しない議員)

檀原市昆虫館

問 地方自治体の生物多様性戦略づくりが努力義務となっている中、県は平成25年に生物多様性奈良戦略を策定した。その戦略には「檀原市昆虫館との連携」という文言がある。県との連携や取り組み状況は。

答 まだ、県から具体的な連携の話はないが、要請があれば、自然史博物館である昆虫館の持つ資料や研究能力、教育や啓発の機能を活用し、積極的に連携協力していく。

問 平成27年度当初予算では調査費用が計上されているが、28年度以降の展開は。

答 今年度、昆虫館に自然環境保全係を設置した。高取町、明日香村を含む飛鳥地域を念頭に置いた生物多様性地域戦略の策定に向け動き出している。基礎調査を行うほか、生物情報の収集等や、団体間の連携協力の斡旋や情報提供などを行う地域連携保全活動支

援センターを設置する。平成28年度には、戦略を策定し、県や関係市町村や団体等と連携し、生物多様性の保全に係る取り組みをしたい。

問 3月に奄美大島を構成する5市町村が、奄美大島本島とその周辺海域を対象地域とする奄美大島生物多様性地域戦略を共同で策定し、全国初の事例としてニュースになっていた。飛鳥地域も調査しているようだが、戦略についても広域で取り組むのか。それとも単独でするのか。

答 高取町や明日香村を含む、広域的な視点で取り組みたい。

問 石垣市に本市の昆虫館の圃場がある。視察をした同僚議員から大きな役割を果たしていると聞いた。圃場について聞きたい。

答 昆虫館は、展示効果や飼育効率の点から、主としてマダラチョウ亜科のチョウを展示しているが、これらは原則琉球列島以南にしか分布しておらず、1種類は、石垣島を含む八重山諸島にしか分布していない。昆虫館では自前で増殖し、食草は専用温室で維持管理し増やしているが、冬場などは十分供給できないこと

がある。安定した餌の供給ができるよう、石垣島に圃場を設置している。

問 石垣市は、石垣市自然環境保全基本計画のもとに自然環境保全条例を施行し、持ち出し規制を始めたと聞く。担当部は把握しているのか。

答 石垣市は、5月1日に希少野生生物の保全種と保護地区を指定し、昆虫12種類を含む20種類の動物と83種類の植物の捕獲や殺傷、採取を禁止した。違反者には罰金による罰則規定が設けられているが、調査研究等に関しては、石垣市長の承認があれば、この限りではない。

問 その指定には、本市に入る植物等は含まれているのか。今後、石垣、奄美を含め琉球列島として世界自然遺産も視野に入れると聞く。制限強化される可能性があるのでは。

答 昆虫館で飼育している昆虫は、現在、規制対象ではない。オモト岳周辺の保護地区以外で捕獲・採取する分には問題がない。今後、規制が拡大されることも考えられ、展示しているオオゴマダラ等やその餌の食草も、規制される可能性はある。

問 平成26年度の市内各施設の入館者数を調べたが、昆虫館は断トツで7万6,013人である。市内有数の博物館で、今や観光スポットである。昆虫館の主役は放チョウ温室である。規制が厳しくなり餌の植物等が持ち出せなくなる前に、石垣市との連携を密にする必要があるのでは。

答 昆虫館では、オオゴマダラの飼育教材キットを開発し、石垣市の小学校で出前授業をし、その飼育の発表を兼ねて石垣市内の小学3年生が当市を訪れ、本市の小学生と交流している。また、開館当初より石垣島を含む八重山諸島で植物の調査を行い、平成25年には「八重山いきもの図鑑」を石垣市と共同発刊した。調査や協力を通して石垣市の亜熱帯固有の貴重な自然環境の保全に貢献し、良好な関係を築きたい。

問 昆虫館が生物多様性のセンター機能を有すれば、水田内の生き物調査もでき、農産物の付加価値や経済価値を高めることができるかと考える。県は「なら食と農の魅力創造国際大学校」開設に向けて動いている。把握はしているのか。